

2022年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント（使命宣言）：「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」

1 本校が目指すもの

(1) 目指す学校像

学校像1	さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、 仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student is left behind.)
学校像2	生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、 入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement)
学校像3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love "Tbkufu.")

(2) 目指す生徒像

生徒像1	自己成長感 （「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、 自己効力感 （「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、 自己有用感 （「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った 自尊感情 の高い生徒 (Self-esteem)
生徒像2	自己指導能力 （その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒 (Self-guidance)
生徒像3	自立と社会参加に必要な「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」、及び ソーシャルスキル （他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）と ライフスキル （社会生活・職業生活等に必要な基礎的な能力）を身に付けた生徒 (Social-skills and Life-skills)

(3) 目指す職員像

職員像1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く 協働と利他の精神 (Collaboration & Altruism) を体現した職員
職員像2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける 専門職 (Profession) としての姿勢を体現した職員
職員像3	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢を調和的に体現した職員 (Synthetic Competence)

(4) 目指すコース像

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす 「最強の常識人」 を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する 「ドッグマスター」 を育成するコース
パソコンコース	情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて 「とがったITジェネラリスト」 を育成するコース
日本語コース	教育課程の履修と高校卒業に必要な「学ぶための日本語」と卒業後の自立と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得し、その日本語能力を活かして希望進路の実現に導く 「自立した日本語使用者」 を育成するコース

2 当面の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組がたくさんあり、それらを本学園では“徳風スタイル”と表現しています。当面、次の2点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

重点目標1：“フレキシブルスクール”への更なる進化

- 本学園は令和2年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール就学”を可能にする徳風高等学校との連携制度について、令和2年度以降の入学生を対象に、年次進行で、これまでの「技能連携」（学校教育法第55条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を本校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」（学校教育法施行規則第98条第1号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を本校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入してきました。
- この制度改革により設置可能となった「日本語コース」を第4のコースとして令和3年度に立ち上げ、本学園は、「専門的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として、また、既存の3コースについても独自性を維持しながら必要な改革を迫及し、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として、更なる進化を続けることとします。

令和元年度 まで	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度
		分野	学科	
	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	技能連携
	パソコンコース			
総合コース				
徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度	
	分野	学科		
令和2年度 から	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	高専併修
	パソコンコース			
	総合コース			
	日本語コース【令和3年度設置】	文化・教養分野	総合科 【令和2年度設置】	

重点目標2：“働き方”の更なる進化

- 本学園は令和2年7月、校長直属の特別委員会「働き方改革検討委員会」を設置し、同委員会での審議を経て、同年10月に「働き方改革アクションプラン」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワークライフバランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「**全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること**」を目的にして、本学園独自の「働き方改革」に取り組むこととしてします。
- 「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の4つに仕分けしたうえで、「令和2年度中に実施」「令和3年度中に実施」「令和5年度末までに実施」「令和6年度以降に実施」の4つに区分し、各改革プランを計画的に実施することとしています。

	A：令和2年度中に実施	B：令和3年度中に実施	C：令和5年度末までに実施	D：令和6年度以降に実施
やめる	■改革プラン1：教員の急な欠勤に伴う時間割変更の取り止めと自習授業の実施			
減らす	■改革プラン2：土日コースのスクーリング時数削減	■改革プラン3：広報活動の実施回数削減 ■改革プラン4：除草作業の実施回数削減		
変える	■改革プラン5：文書・チラシ等の折込作業等の機械化 ■改革プラン6：2学期三者懇談会の対象生徒の制限	■改革プラン7：オンライン授業（金曜4限）を含む時間割の編成・実施 ■改革プラン8：職員室の机配置の一部変更 ■改革プラン9：広報チラシ等作成業務の完全業者委託 ■改革プラン10：教員間の交渉による時間割の一部変更 ■改革プラン11：会議革命	■改革プラン12： <u>寮監業務の抜本的改革</u>	■改革プラン13：授業時間の一律標準化（1コマ50分で統一）
始める・つくる	■改革プラン14：電話対応時間の設定と電話自動音声システムの導入 ■改革プラン15：「学校閉業日」の導入			■改革プラン16： <u>1年単位の「変形労働時間制」の導入</u> ■改革プラン17：Wi-Fi環境の整備と「生徒一人一台タブレット」の導入 ■改革プラン18：教育課程を基にした各教科の教員数と非常勤講師の時間数の算定 ■改革プラン19：各種特別手当の支給 ■改革プラン20：時間年休の導入

3 本年度の重点取組と自己評価

重点取組	内容・方法	自己評価								
<p>1 「三重徳風学園学校改革ビジョン（基本計画）」の策定</p>	<p>本学園は令和4年2月、「教育の活性化」と「経営の安定化」をもたらす“徳風イノベーション”と新たな“徳風スタイル”の創出を目指す校長直属の学校改革特別委員会「進化」を設置し、同委員会での審議を経て、次の3つを当面の学校改革案として決定しました。</p> <p>本年度は、「三重徳風学園学校改革ビジョン（基本計画）」を策定したうえで、各改革案の実施に向けた3つのプロジェクトチームを立ち上げ、それぞれ実施計画を作成します。</p> <table border="1" data-bbox="546 427 1702 919"> <thead> <tr> <th data-bbox="546 427 990 464">学校改革案</th> <th data-bbox="990 427 1702 464">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="546 464 990 603">1 「自立支援型デュアルシステム」の実施</td> <td data-bbox="990 464 1702 603">令和5年度以降の入学生を対象に、インターンシップ（就業体験）を教育課程上に位置付け、本校生徒の実態等に即した「デュアルシステム」を令和6年度から実施する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="546 603 990 742">2 特待生制度の創設</td> <td data-bbox="990 603 1702 742">入学試験の結果による「学業特待」、運動部への入部を条件とする「スポーツ特待」、生徒寮への入寮と運動部又は文化部への入部を条件とする「チャレンジ特待」を創設する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="546 742 990 919">3 「働き方改革アクションプラン」の早期実現</td> <td data-bbox="990 742 1702 919">令和5年度末までに実施するとしている改革プラン12「寮監業務の抜本的改革」、及び令和6年度以降に実施するとしている改革プラン16「1年単位の変形労働時間制の導入」を実施し、「時間外労働なし・振替休日完全取得の学校」を目指す。</td> </tr> </tbody> </table>	学校改革案	内容	1 「自立支援型デュアルシステム」の実施	令和5年度以降の入学生を対象に、インターンシップ（就業体験）を教育課程上に位置付け、本校生徒の実態等に即した「デュアルシステム」を令和6年度から実施する。	2 特待生制度の創設	入学試験の結果による「学業特待」、運動部への入部を条件とする「スポーツ特待」、生徒寮への入寮と運動部又は文化部への入部を条件とする「チャレンジ特待」を創設する。	3 「働き方改革アクションプラン」の早期実現	令和5年度末までに実施するとしている改革プラン12「寮監業務の抜本的改革」、及び令和6年度以降に実施するとしている改革プラン16「1年単位の変形労働時間制の導入」を実施し、「時間外労働なし・振替休日完全取得の学校」を目指す。	<p>本年度は、「三重徳風学園学校改革ビジョン（基本計画）」の策定には及ばず、左記の3つの改革案を示した学校改革特別委員会「進化」の「審議のまとめ」（令和4年3月22日）を基に、各改革案の実施に向け、以下のとおり取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○改革案1：実施要項を作成し、受入れ先の確保に向け、一部関係機関を訪問した。 ○改革案2：同改革案を発展させ「自己申告型奨励金制度（エンカレッジ制度）」を創設し、令和5年度から運用を開始する。 ○改革案3：本年度末現在、両改革プランの実施に係る「第3次案」を策定したところである。
学校改革案	内容									
1 「自立支援型デュアルシステム」の実施	令和5年度以降の入学生を対象に、インターンシップ（就業体験）を教育課程上に位置付け、本校生徒の実態等に即した「デュアルシステム」を令和6年度から実施する。									
2 特待生制度の創設	入学試験の結果による「学業特待」、運動部への入部を条件とする「スポーツ特待」、生徒寮への入寮と運動部又は文化部への入部を条件とする「チャレンジ特待」を創設する。									
3 「働き方改革アクションプラン」の早期実現	令和5年度末までに実施するとしている改革プラン12「寮監業務の抜本的改革」、及び令和6年度以降に実施するとしている改革プラン16「1年単位の変形労働時間制の導入」を実施し、「時間外労働なし・振替休日完全取得の学校」を目指す。									
<p>2 校内組織体制の改善</p>	<p>本学園は本年度、組織体制を次のとおり刷新しました。この体制が適切且つ円滑に機能するよう継続的に評価し、必要に応じて見直しを図ることとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度に新設した「主幹教諭」に加え、指導体制（学習指導・生徒指導・学級経営等に関する指導力の向上と職員間の協働の促進等）の充実を図るため、「指導教諭」を新設しました。 2 校務分掌体制の改善を図るため、「保健部」と「広報部」を新設し、「教務部」、「生徒指導部」、「進路指導部」と併せて5部体制としました。また、「研修係」と「生徒会係」を新設し、「人権教育係」及び「全体指揮係」と併せて4係体制としました。 3 各種情報・データ等のデジタル化・システム化を最大限に図りながら、校務全般の効率化・合理化を進める「校務システムプロジェクト」を立ち上げるとともに、高品質な授業を収録・デジタル化した媒体をメディア学習用教材として活用することにより、面接指導の効率化を進める「メディア学習プロジェクト」をそれぞれ立ち上げます。 4 生徒一人一人の状況を確実に把握・共有しながら「学年としての教育力」の更なる向上を図るため、職員室の座席配置を「分掌別」から「学年別」に変更しました。 	<p>左記1～4の状況は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○改善1：両充て職の一部に改善を要する面がうかがえる。 ○改善2：新設の部・係はいずれも改善の効果がみられ、特に広報部と生徒会係は顕著である。 ○改善3：両プロジェクトを立ち上げることができなかった。 ○改善4：毎朝の全体打合せ終了後の学年別打合せ等を通じ、学年内の情報共有等に改善の効果がみられる。 								

4 本年度の計画と自己評価

以下において、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	学習指導に関する指導力向上のための組織的な取組が弱い。また、常勤教員が18名と少なく、授業時間中は空き時間もほとんどない状況ではあるが、生徒の学力と教員の指導力を継続的に向上させていくための実施可能な仕組みと共通実践が必要である。	
目指す状態	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。	
実践内容	校内授業公開週間年2回設定。 新カリキュラムに即した観点別評価等の学習評価の適正実施 ICT教材や情報端末のアプリを活用した学習指導の実施	自己評価 校内授業公開週間を1回、2月に実施した。 学習評価要領を新たに策定し、各科目等で実施している。 各教科にて端末を用いた授業内容を展開している。 ()内の左は2021年度、中は2020年度、右は2019年度の数値。(以下同じ。) 生徒58.2% (65.2%、54.3%、63.7%) 職員72.7% (57.9%、58.8%、36.8%)
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上 職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員6割以上	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力満足度と各コースの授業満足度に乖離がみられるため、各共通教科・科目で「分かる授業・楽しい授業」の実践を徹底する必要がある。 校内授業公開を必ず実施し、教員の指導力向上に一層努める。 添削指導(レポート)及び「メディア学習」の在り方を確立する。 	

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談の充実を継続する必要がある。	
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力(その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのか、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力)を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。	
実践内容	生徒指導部主導の全教職員による共通実践とその効果等の確認の徹底 生徒指導部内での生徒情報共有会月1回の実施と学年・担任との連携協力態勢の構築 生活委員と連携した「あいさつ運動」各学期2回実施	自己評価 生徒指導部主導の全教職員による共通実践を適宜実施。 生徒指導部内での生徒情報と学年との協議を適宜実施。 実施できなかった。 15件 69.2% (58.2%、54.3%、47.4%)
評価指標	問題行動による特別指導件数年10件以内 生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒7割以上	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ新たな部として「指導部」を創設する。 社会変化や本校生徒の実態等に即した校則となるよう必要な見直しを行う。 必要な生徒が一層適切な支援を受けられるよう、「徳風総合支援プログラム」(医療、福祉、行政等の関係機関との連携体制の中で必要な支援を行う仕組み)を一層積極的に展開する。 	

ウ 進路指導

現状と課題	進路選択が依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高めていくことができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を策定し、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目指す状態	生徒が、必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	3年生・保護者対象の進路説明会の開催及び進路ガイダンスの各学期実施	自己評価	学期ごとに実施した。
	社会で活躍する卒業生による在校生対象の「進路講演会」の開催		実施できなかった。
進路指導に係る内規・マニュアルの精査及びその結果の周知徹底と共通理解	校内共有情報システムにより共有できている。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上	91%	
	生徒満足度調査において、「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒8割以上	70.9% (70.2%、65.1%、56.3%)	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ新たな部として「指導部」を創設する。(再掲) キャリア教育委員会を新たに設置する。 3年間の系統的なキャリア教育指導計画を策定し、全校体制による進路指導を実施する。 令和5年度入学生が2年次で実施予定の「デュアルシステム」に向けた準備を計画的に行う。 社会で活躍する卒業生が自己の様々な体験を在校生に語る場を設ける。 		

エ 安全・健康指導

現状と課題	令和3年度3学期から養護教諭が常駐し、令和4年度に保健部を新設したところである。今後は、本校生徒の実態を踏まえ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について検討する必要がある。		
目指す状態	全生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒に関するケース会議を必要に応じて開き、当該生徒に関する情報が全職員に共有されており、全教員が適切に対応している。		
実践内容	本学園での新型コロナウイルス感染症対策の徹底と最新の関係情報の発信	自己評価	新型コロナウイルス感染症に関する最新情報を反映した感染防止策をホームページに掲載し、メールで周知した。
	特別支援を要する生徒等に関するケース会議の適時開会とその結果の迅速な情報共有		ケース会議開会にあたり、学校相談員やスクールカウンセラーの意見も踏まえ、情報共有に努めた。
特別な支援を要する生徒への対応に関する職員研修の実施	在校生のケースを基にグループワークを行い、職員一人一人が対応の在り方を考える研修を実施した。		
評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善された生徒多数	心因性の保健室利用者がやや増加傾向にある。	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 学校としての生徒相談機能を強化するため、非常勤のスクールカウンセラーに替えて常勤の公認心理士の資格を有する生徒相談員を新規採用する。 新規採用の生徒相談員を特別支援教育コーディネータに据え、特別支援学校での勤務経験と特別支援教育士の資格を有する学校相談員の協力も得て、特別支援を要する生徒に対する支援体制を強化する。 必要な生徒が一層適切に保健室を利用できるよう、保健室を移転し、室内環境を整備する。 必要な生徒が一層適切な支援を受けられるよう、「徳風総合支援プログラム」(医療、福祉、行政等の関係機関との連携体制の中で必要な支援を行う仕組み)を一層積極的に展開する。(再掲) 		

オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを更に向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。		
実践内容	生徒が主体的に計画・実施する体育祭、文化祭の開催	自己評価	生徒会が主導する生徒主体の体育祭・文化祭を実現させ、文化祭は地域住民に初めて公開して盛況を呈した。
	社会性とソーシャルスキルの向上を目指す体験的活動の実施（母校訪問等）		生徒会主導で街頭募金活動等を実施した。
新しい学校行事の実施（校内イラストコンクール等）	学校掲示用ポスターの作成や呼びかけなど生徒会活動が活性化し、文化祭ではイラストコンクールを実施した。		
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒7割以上	72.2%（57.5%、57.7%、56.3%）	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の生徒会活動の着実な引継ぎと継続実施 ・自己効力感と自己有用感を高められる生徒会運営 		

カ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海大会・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	文化部の活性化と文化祭等での発表機会の確保	自己評価	一部の文化部が文化祭で活動の成果を発表した。
	部活動活性化に向けた「部長会議」各学期1回実施		実施できなかった。
オープンキャンパス中の部活動見学時間の設置	複数の部が見学時間を設け、部員が積極的に活動した。		
評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒6割以上	49.7%（45.6%、36.2%、31.2%）	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会予算の有効活用 ・部員主体の新入部員勧誘活動 		

キ 総合コース

現状と課題	生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。		
目指す状態	明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている。		
実践内容	第1学年対象の「進路探究講座」、第2・3学年対象の「進路実現講座」及び全学年対象の「基礎教養講座」の新設	自己評価	各講座を新設した。
	「進路探究講座」及び「進路実現講座」の中長期的運営計画の策定		当該計画は策定できなかった。
SNSを活用した総合コースの広報活動	Twitter・インスタグラで調理講座等の様子を掲載した。		
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上	94%（89%、74%、73%）	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像、目指すコース像等の実現に資する講座となるよう各講座の趣旨・目標の明確化 ・「ソーシャルスキル講座」の新設 		

ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、プロスタッフの充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全職員が「目指すコース像」について共通理解をしたうえで共通実践し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している。		
実践内容	市民対象の「犬の躰・グルーミング教室」の開催	自己評価	亀山商工会議所主催の「カメジョブキッズ 2022」で市民（小学生）対象の「トリマーのお仕事体験」を実施した。2・3年生を対象に年2回実施した。
	トレーニング・トリミングの集中講義各学年2回以上実施		実施できなかった。
何を学び、自分がどう変わったかを語った卒業生の手記「犬を学び、犬から学ぶ～成長の軌跡～」(仮称)の作成と広報活動での活用	実施できなかった。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒7割以上	82%	
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上	82% (77%、73%、84%)	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 何を学び、自分がどう変わったかを語った卒業生の手記「犬を学び、犬から学ぶ～成長の軌跡～」(仮称)の作成と広報活動での活用 テレビ、広報誌等マスメディアからの取材依頼への積極的対応 各種イベントへの積極的参加 		

ケ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意分野を伸長するため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。		
目指す状態	全生徒が複数の検定試験を受験し合格している。また、個別に設定された目標の実現に向け自主的に学習している。		
実践内容	ICT機器（コンピュータと周辺機器）の計画的整備	自己評価	実施できなかった。
	資格取得に向けた個別の学習計画の作成と活用		実施した。
自学自習用デジタル教材の作成と活用	一部科目で実施した。		
評価指標	日本情報処理検定3級以上を取得した生徒8割以上	82%	
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上	73% (71%、75%、82%)	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器（コンピュータと周辺機器）の計画的整備 日本情報処理検定以外の資格取得に向けた検定試験対策の実施 プログラミングやCGデザインに関わるコンテストへの参加 高等教育機関・企業等訪問 		

コ 日本語コース

現状と課題	令和3年度に設置したところであり、他コースとは異なる種々の課題を解決し、その成果を校内で共有しながらコースを運営していく必要がある。		
目指す状態	進学希望の生徒は日本語能力試験（JLPT）の「N2」、就職希望の生徒は「N3」にそれぞれ合格し、希望進路を実現している。また、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている。		
実践内容	教科用図書を使用した読解・会話等分野別学習指導の実施	自己評価	実施した。
	授業中における日本語以外の言語使用禁止の徹底		徹底できた。

	実践的な日本語活動の実施（地域の社会人として必要な基本スキルの習得訓練、地域のボランティア活動参加、「日本語コース1年生に役立つスクールガイド」の作成等）	評価	2年生が三重県国際交流財団主催のインターンシップに、1・2年生が大学・事業所合同セミナーに参加した。
評価指標	日本語コース1・2年生全員の進級 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上		全員進級した。（進路変更の生徒を除く。） 100%（昨年度100%）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年でのインターンシップの継続実施 ・3年生全員の日本語能力試験（JLPT）「N3」以上合格を目指した指導の充実 ・日本語コース保護者会の実施 ・他の学年・コースとの積極的交流（合同学級を含む。） ・広報活動の更なる推進 		

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備

現状と課題	防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。		
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。		
実践内容	5年計画の防火対策2年目（調理室と体育館の間の防火対策）実施。 新備品（机・椅子・ロッカー）と旧備品の一部入れ替え。新プロジェクターの導入。 教室と職員室の新エアコン入れ替え。運動場の排水工事。体育館の緞帳修繕。	自己評価	実施した。 実施した。 新エアコンへの入れ替えは実施できた。
評価指標	計画した工事の8割以上実施		計画した以下の工事は全て実施。 ・駐輪場への通路整備 ・教育棟地下北入口屋根の防水工事 ・教育棟3階教室の掲示版・内壁・掃除道具置場整備 ・厨房への新冷凍冷蔵庫設置 ・エアコン3台設置（入替1台、追加2台）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施。 ・安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施。 ・敷地内外からの治安を高めるため木の剪定実施。 		

イ 広報・生徒募集

現状と課題	教育活動の特色化・魅力化に関する経営努力が募集定員の充足に結び付かない状況が長年続いており、特に滋賀県と松阪地区からの入学者が減少傾向にある。今後は、本学園の「強み」が県内外の中学校・中学生に一層広く周知され、入学者増につながる広報の在り方を追求する必要がある。		
目指す状態	令和4年度に新設した「広報部」が主導する広報・生徒募集活動が功を奏し、毎年度、募集定員を概ね充足する入学者数を維持している。		
実践内容	在校生が主体的に活躍し運営に貢献する「オープンキャンパス」の実施 中学校訪問の実施方法の一部見直し（「地区担当者制・学校担当者制度」の導入等） 本校出願・入学の決定要因等を尋ねる「在校生アンケート」の実施 本校ホームページのリニューアル	自己評価	生徒会役員及び各コース代表の生徒がオープンキャンパスに協力した。 「地区担当者制・学校担当者制」を一部導入した。 「在校生アンケート」を実施した。 リニューアル案を作成した。

評価指標	次年度入学者3割増	2次後期入試（3月23日）終了後に記入。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の拡大・多様化を図るための人材配置 ・各種データ（入学者数、オープンキャンパス参加者数等）の確実な管理とその推移を踏まえた広報活動の工夫・改善 ・印刷物の早期準備 ・中学校訪問の在り方の抜本的改善（訪問時期、訪問対象、持参物等）と中学校教員対象の「中学校訪問に関するアンケート」の実施 	

ウ 組織運営

現状と課題	組織運営の効率化を図るため、令和2年度末に「総務部の廃止」、「主幹教諭の新設」、「主任会に替わる少数精鋭の学校経営委員会の設置」を、令和3年度末に「保健部と広報部の新設」、「指導教諭の新設」を決定した。今後は、これらの改革の成果を検証しつつ、令和2年度に策定した「働き方改革アクションプラン」を計画的に実施していく必要がある。		
目指す状態	職員一人一人が「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら職務を遂行し、「誰の仕事でもない仕事は自分の仕事」、「他者のために尽くすことが自分の仕事」などと考え、行動する「協働」の姿勢と「利他」の精神を持つ職員が多い。		
実践内容	組織力向上に関する意識啓発文書の年5回以上配付 「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施 「働き方改革アクションプラン」の次年度以降実施予定内容の早期実施	自己評価	12回配付。 実施事項19本のうち6本を実施。 令和6年度実施予定の改革プランの実施計画案を決定。
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上		40.9%（36.9%、61.1%、36.8%）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末反省の結果を集約して決定した「重点改善事項」を確実に実施する。 ・「働き方改革アクションプラン」を着実に進める。 ・就業規則の一部改定 		

エ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組を定着させる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員の学校満足度の高い状態が続いている。		
実践内容	生徒会からの要望1つ以上実現 「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施（再掲） 「働き方改革アクションプラン」の本年度実施予定の改革プラン完全実施（再掲）	自己評価	生徒会から要望のあった地域住民公開の文化祭を実施 実施事項19本のうち6本を実施。（再掲） 令和6年度実施予定の改革プランの実施計画案を決定。（再掲）
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上、保護者8割以上、職員7割以上		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 62.9%（65.2%、61.1%、67.4%） ・保護者 77.2%（73.6%、73.8%、75.3%） ・職員 59.1%（52.7%、72.3%、52.6%）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各満足度調査を継続実施し、別途実施する「年度末反省」の結果等も踏まえながら、各満足度を高められるよう改善方策を具体的に立て実施する。 ・「働き方改革アクションプラン」を着実に進める。 		

5 本年度の学校関係者評価

令和5年3月1日、学校関係者評価を実施し、その結果概要は次のとおりです。

- ・生徒主体の学校行事は今後も継続されたい。

- ・生徒が行うボランティア活動も積極的に推奨されたい。
- ・総合コースの選択講座は生徒の意見を聴いて開設の可否を検討してもよい。
- ・広報活動の一環として、ホームページに生徒の活動の様子を動画で紹介することも検討されたい。
- ・日本語コースの教育活動として、体験的な学習の機会を増やすことも検討されたい。

6 次年度に向けた主な行動計画

1 “徳風スタイル”の更なる進化

(1)「自立支援型デュアルシステム」の新規実施

令和5年度以降の入学生を対象に、インターンシップ（就業体験）の標準的な実施方法や一部の専門高校が実施する「デュアルシステム」（実務・教育連結型人材育成システム）とは異なる、本学園生徒の実態等に即した“自立支援型デュアルシステム(自称)”を新たに導入し、2年次での実施に向け準備していきます。

(2)生徒相談・支援機能の強化

令和5年度から、公認心理士の資格を有する教員が常勤で勤務することから、当該教員の専門性と公立学校・福祉機関等での勤務経験を活かし、自らの課題・特性により「困り感」や「生きにくさ」を抱える生徒や特別支援を要する生徒に対する相談・支援の強化を図ります。

(3)総合コースにおける“日本語講座”と“ソーシャルスキル講座”の新設

総合コースにおいて、「日本語コースで初級レベルから日本語を学習するには及ばないが、漢字の読み書きが苦手。」「教科書の理解が難しい。」といった外国につながる生徒が日本語を学べる“日本語講座”と、「言葉で考え、判断し、表現する言語能力や認知機能・感情統制機能の向上を図る学習活動を通じてソーシャルスキルを身に付けること」を目標とする“ソーシャルスキル講座”を新設します。

(4)がんばる生徒を応援する“奨励金制度（エンカレッジ制度）”の新設

学業成績や部活動で顕著な成果を収める生徒だけでなく、例えば、不登校を経験した生徒、障がい特性を抱える生徒、アルバイトをして家計を助ける生徒、家族の世話・介護等を行う「ヤングケアラー」と言われる生徒など、自らの課題・特性・環境を「バネ」にして前向きに生きていこうと頑張る生徒を応援するため、年間10万円の奨励金（返還不要）を支給する「三重徳風学園奨励金制度（エンカレッジ制度）」を新たに創設し、次年度から運用します。

2 校内組織の改善

(1)「指導部」の新設

生徒指導は、生徒が進路を選択・実現する資質・能力を育てる組織的・継続的な営みである進路指導、ひいては生徒の社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育てるキャリア教育と密接不可分の関係にあることを踏まえ、生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ新たな部として「指導部」を創設し、教務部と本年度創設した保健部・広報部と併せて4部体制とします。

(2)広報活動の拡大・多様化と広報部への人材配置

中学校を主な対象とする広報活動から中学生の保護者を含め一般住民をも対象とする広報活動へ、印刷物中心の広報活動からネットをフルに活用した広報活動へと広報の対象・手段の拡大・多様化を図り、必要な人材を広報部に配置します。

(3)キャリア教育委員会の新設

(4)入学者選抜、入学相談等の係の新設

(5)徳風技能専門学校専門課程担任の複数化